



概要報告

コメンテーター： 家頭 昌子、神岡 千春（広島県建築士会） 司会：河野 房子

発表内容：「**広島からヒロシマ、そして広島へ～歩いてさがそう未来のひろしま**」

F分科会は、広島県建築士会の活動を発表してもらいました。

昨年、広島県は**広島平和記念都市建設法 60 周年記念**の年でした。原爆で壊滅状態になった広島のみちを復興するために制定されました。今でも広島のみち作りの基本になっている法律で、現在の広島ができています。子供たちは、今あるこの町がどのように復興したかを知る事はありません。

広島市から依頼もあり、広島のみちをめぐるウォークラリーを行うこととしました。

「**過去**」はレクチャーです。パワーポイントを使って広島のみちの成り立ち、戦後の復興を経て、現在のまちに至った歴史を学びます。パワーポイントは濱じいと 2 人の子供が会話する設定で話を進め、一緒に学ぶという姿勢で進めました。都市計画の考え方についてもすんなりとのみこんでくれたようです。

「**現在**」では、戦前の地図を使って、昔と今を比較しながらまちを歩きます。現在のまちの様子を観察することが目的です。グループに 1 台、子供たち用にカメラを渡し、何の制約も付けずいろんな街を撮ってもらいました。子供の目を通して見た広島のみちです。

「**未来**」では、学んだことを元にパネル作成です。変わらないところ、残したいものなどを書き込むことで、未来のみちについて考えてもらいました。子供たちはパネル作りに没頭し時間延長をしたほどでした。後日、保護者宛に依頼した「子供たちのその後」のアンケートの中に、親御さんをつれて再度まちを見学した子や自分たちで未来のみちを考えないといけないと思った子もいたようです。

以上が発表内容ですが、**各県でも**子供を対象にたくさんの活動を行っていました。「子供と一緒に考えよう私の住まい」「小さな家作り」「建築とまちづくり」「学童保育にかかわっての活動」など多々ありました。

その中で**共通課題**として、「子供たちの集め方」です。①教育委員会や学校への働きかけ、②公民館でのポスター張り、③地域の NPO に協力依頼など皆さんあの手この手を使いながら苦労しているようです。

これからの課題として、「継続すること」が大事で、継続するには自分たちが目的を持ち最終的に何を伝えたいかを明確にしなければならない。活動の方向性を間違えることなくひとつにする。などでした。